



ベトナム情報レポート（2022年8月31日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク
株式会社NCネットワーク

【ベトナムの再生可能エネルギー政策】

2021年11月、英国のグラスゴーで開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）で、ベトナムは2050年までにカーボンニュートラルになることを表明しました。ベトナムは再生可能エネルギー産業で高いポテンシャルを持つ国の1つで、近年多くの国内外企業が投資を行い、急速に発展しています。発展要因の一つ目は、国内の電力消費量の多さです。国際エネルギー機関によると、ベトナムは東南アジアで2番目に大きな電力消費国であり、投資家にとって魅力的な国と言えます。二つ目は、地理的優位性です。ベトナムはアジアで最も日照時間が多い国の1つ（年間平均1,500時間から1,700時間）であり、日射量も年間を通して大きく変化しません。さらに、3,000kmの海岸線を含む細長い地形と多様な山地・丘陵のおかげで、風力資源が豊富です。

2021年末時点のベトナムにおける再生可能エネルギー源の総設備容量は20,670MW、電力システム全体の総設備容量(76,620MW)の27%を占めます。同エネルギー源からの総発電量は31兆5,080億kWhで、全体の総発電量の12.27%を占めます。

ベトナムの再生可能エネルギーで最も発展が早い分野は太陽光発電です。全国の太陽光発電設備容量は、2018年の86MWから2020年には約16,500MWに急速に増加しました。2021年の発電量は発電量全体の10.8%を占めます。ベトナムの第8次国家電力計画によると、2030年までに太陽光発電容量は約18,890MWになり、2045年には約53,000MWになるとされています。

一方、2021年の風力発電の発電量は、全体の発電量の1.3%に相当します。世界銀行の報告書によると、2030年までに、洋上風力発電容量は1,000MWから5,000~19,000MWに増加し、陸上風力発電は1,260MWから17,340MWまで増加する潜在性があります。

このようにベトナムでは、特に太陽光発電、風力発電のポテンシャルが高い一方で、課題も山積しています。エネルギー研究所によると、2020年末時点のベトナムの電力システムの総設備容量約69,000MWのうち、石炭火力発電が約21,000MW、水力発電が約21,000MW、ガスタービンと石油火力発電が約9,000MW、再生可能エネルギー源は17,430MWとなっています。しかし、利用可能な最大発電容量は41,558MWと、大きなギャップがあります。その主な原因は、急速に発展した太陽光発電、風力発電からの発電量に対し、送配電インフラの整備が追いついていないことにあります。太陽光発電の建設投資が通常6ヵ月であるのに対し、送電網の投資は2~5年かかります。また、これらの電源が経済性の高い地域（主に中部・南部）に偏っており、その地域の電力網に過負荷がかか

ることで電源供給に支障が出るケースがあります。更に、天候に左右されやすい再生可能エネルギーを優先的に使用すると、石炭火力、水力といった他の電源の出力を調整することになり、調整にかかるコストや設備故障のリスクも高まります。その他にも、回収期間が長い再生可能エネルギープロジェクトに対し、金融機関の融資体制が整備されていないといった課題もあります。

しかし、これらの課題はベトナムに限ったことではありません。世界的な脱炭素化の流れによって制度・設備の質は上がり、コストは下がっていきますので、ベトナムもこの分野で大きな成功を収めるチャンスがあると思います。